

多高通信

第126号 平成28年1月27日発行

部活動 全国大会出場報告

弓道部女子 全国高等学校弓道選抜大会

■丹野瑞月(2年1組 東豊中出身)

12月23日から26日まで栃木県で行われた第34回全国高等学校弓道選抜大会に、宮城県代表として出場してきました。11月の東北大会以降、本調子とは言えない状態が続き、不安を抱えながら大会を迎えることになりました。宇都宮に到着してから直前の練習でつかんだものがありました。想像を超える緊張・観客の数・声援の中、いつも通り引くことができました。

目標としていた決勝トーナメントへは進めませんでした。その分多くのご機嫌を学ぶことができました。この貴重な経験を通して感じたこと、学んだこと、悔しさを、さらなる飛躍につなげていきたいと思えます。

今後は3月に開催される東日本大会に駒を進められるように日々の練習に励んでいこうと思います。応援ありがとうございました。

ラグビー部

第8回U-18日合同チーム東西対抗戦

■安孫子萌人(3年2組 多賀城二中出身)

1月7日、日本ラグビーの聖地である花園ラグビー場で、東西対抗戦の東日本代表チームのキャプテンとして闘ってきました。この対抗戦のチームは、両軍とも、日本全国から選抜された初対面の選手で構成され、試合までの練習期間が2日間のみというハードスケジュールでした。短期間の練習でいかに選手同士のコミュニケーションを取り、絆を深め、少ない練習時間でどれだけ集中しひたむきに取り組めるかが重要になってきます。

試合当日の朝、東日本代表の山口監督が2日間の私たちの様子をまとめたVTRを見せてくださいました。見終わった時、私は胸が熱くなったの



のと同時に、今回の花園での試合に多賀城高校での3年間の全てをぶつけることを心に誓いました。試合では負けてしまったのですが、部活で培ったことや多高ラグビー部の角田監督に教えていただいたことを全て発揮できたと思います。

花園ラグビー場は、全国の高校生ラグビーマンが立てるわけではありません。私は高校ラグビー最後の試合を、東日本代表で、あのチームメイトとともに、花園の舞台上でプレーすることができたことは、今まで生きてきた中で最高の経験でした。そして、私をここまで育ててくれた多高ラグビー部の角田先生、高松先生、大橋先生、チームメイト、そして家族に感謝しています。ありがとうございました。

芦屋高校交流会

ぼうさい甲子園表彰式

1月9日からの3日間、生徒会から2名の代表生徒が神戸市で、芦屋高校とぼうさい甲子園表彰式の2つの交流行事に参加してきました。「ぼうさい甲子園」は、児童・生徒等が学校や地域で主体的に取り組む先進的な防災教育にかかる活動を表彰するものです。11回目の開催となる今年度、本校の活動が優秀賞を受賞しました。

■亀山沙月

(2年7組 多賀城中出身)

初日は芦屋高校のボランティア部の皆さんとの交流会を行いました。その中で、人と未来防災センターへ行ったことが強く印象に残っています。阪神・淡路大震災当時の写真や映像、実物の他に、発生直後の様子を再現したパネル映像を見ることができ、迫力があってとても衝撃的でした。それと同時に、東日本大震災当時のことを思い出してしまい、正直辛かったです。しかし、そうして折を見て思い出することで自分の中の記憶の風化を防ぐことは大切なのだなとも思いました。当時はあまりにも辛すぎる現状



芦屋高校との交流会の様子

を考えないようにすることで前向きになれたりしたのですが、5年近くの月日が流れた今、改めて思い出出すことでしょうか。5年近くの間、風化を防ぎ、精神的な復興の時期に近づいてきたのではないかと考えるきっかけとなりました。2日目はぼうさい甲子園の表彰式に参加しました。発表は緊張せず、普段通りにできたのではないかと思います。また、「女川1000年後の命を守る会」の2人の発表が印象に残りました。本当に2人が主体で活動していて、地元のためにできることをという気持ちで強く込められていて感動しました。交流会では、多くの方々とお話ができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。昨年参加した阪神淡路大震災のメモリアル行事で知り合い、交流を続けてきた舞子高校の先輩もスタッフとして参加なさっていて、一緒に取材を受けました。取材中に先輩の思いなども聞くことができ、とてもよい刺激を受けました。

受賞者の記念写真



この3日間は私にとって、とても大きな3日間になりました。防災・復興のために自分ができることについての視野が広がり、本当に勉強になったと思います。これからは宮城の防災・復興のために活動していきたいと改めて思うことができました。

祝 テニス部女子

東北インドア大会出場!

■部長 木村優(2年1組 田子中出身)

今回、女子硬式テニス冬季ジュニア大会のダブルスで準優勝することができました。県大会では、1戦ごとに対戦相手のレベルが上がっていく、勝ち進むのがとても難しかったです。しかし、応援してくれた他の部員や先生、リードしてくれるペアのおかげで、先に相手にゲームを何個か取られても、落ち着いて試合を進めることができました。また、決勝戦では、自分たちの実力を全て出すことができたので、後悔が残ることはありませんでした。東北大会への課題も見つけることができました。

木村・齋藤ペア



東北大会では、東北の強い選手と試合をすることができ、滅多にないチャンスなので、これからは、毎日の部活での練習を大切にして、本番で全力を出し、悔いのない試合をしたいと思えます。

家庭科特別授業 「災害時の食事」

1月18日、岩手県立総合教育センター支援指導部の川地里美研修指導主事をお迎えし、家庭基礎特別授業「災害時の食事」を行いました。



川地先生は、「ご自身の被災体験や当時の岩手県の様子などの話を交えながら、災害時の栄養摂取の在り方を考え、どのように献立を考えていくかというお話と実習がありました。避難生活で配給される食品は炭水化物に偏りがちなこと、家庭の中になる備蓄食料はどんなものがあるかを調べることで、これらを使って、最小限の熱と水でどのようにバランスを考えながら食事をとるか考えました。この授業を通して、自分や家族の健康を大切にし、安全(防災・減災)についての改めて考えるきっかけとなりました。震災の時の記憶を風化させないためにも、このような試みを続けて行ければと思います。

救急救命講習会

1月19日、1年1組の保健の授業で救急救命講習を行いました。多賀城消防署の職員の方3名に学校へおいでいただき、約2時間の授業をしていただきました。



はじめに、胸骨圧迫(心臓マッサージ)法の説明と実践を行いました。また、マウスシューマウスでおこなう人工呼吸法のやり方も人形を使い指導をしていただきました。最近では感染症の危険があるので胸骨圧迫だけでもよい。もしもの時は、救急車が到着するまで、ひたすら胸骨圧迫を行ってほしい、という説明を受け、実際に処置する場面を想定した実習を行いました。

さらに、AEDの操作・使用方法も学び、いざというときに手際よく行えるよう、一人ずつ丁寧に指導いただきました。